

協働事業報告書

【事業名】	令和4年度（2022年度）鎌倉市冒険遊び場協働運営事業		
市担当課	こども支援課		
団体名	NPO 法人 かまくら冒険遊び場やまもり		
事業実施期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日		
事業費	7,003,274 円	負担金額	7,003,560 円
事業目的	<p>子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる遊び場の提供及び自然遊びの情報発信を行うことのほか、子育てに関する情報提供や、子育て中の親子に対する支援を地域団体等と協働で実施することにより、地域の交流や多世代交流の活性化を図ることを目的としている。</p> <p>【達成できた点】 1.冒険遊び場事業 【梶原】 ・未就学児から保護者と一緒に遊び場を利用していた子供たちが、1年生になり、子どもだけで利用するようになった保護者もよく知る場所で安心して遊ばせる環境づくりができた。 ・続くコロナ禍での運営となったが、安全対策は支援課の指導のもと徹底して行い、施設の換気、清掃、消毒などの日常化市内のコロナ発生状況の情報収集に取り組んだ。 ・未就学児親子にお弁当を食べられる場所として認知されるようになった。 ・高学年の子が刃物を使って遊んだり、その手入れをする姿を下の子が見て、教えてあげたり真似したりといい関係が生まれるようになった、</p> <p>【出張冒険遊び場】 ・予定していた4回の出張冒険遊び場を実施した。各回地域の人々にスタッフやボランティアとして協力していただいたり、木工の回では木材の提供と共に開催を行うことができ、充実した内容となった。</p> <p>【全体】 ・利用者数全体は前年の1.2倍程度増となった。 小学生の利用は午前・午後とも1.3倍程度、中学生利用は午前中が1.5倍、午後5.5倍、大人利用は午前1.3倍、午後1倍であった。一方未就学児は午前は1.1倍、午後は減少となった。中学生利用が大幅に増えた理由として地域イベント開催時に中学校へ参加要請を行い、その後利用につながった。小学生利用の増加は、周知がなされていることのほか、常連の子どもたちが増えてきている点が大きな影響を与えている。 ・市の公式LINE、やまもりのSNS、HPで積極的に普段の遊びの様子や出張冒険遊び場の告知や報告を発信することができた。 ・スタッフは子育て支援員の研修を受講した。防災防犯訓練を実施し、マニュアルの見直しを行った。また個別に必要なと思われる研修を自主的に受講した。 ・地元の材木店からは端材の提供を、建設会社からは土場で使う土の提供を快くしていただいた ・不登校児への周知として、神奈川県・学校・フリースクール等と連携し、HPに掲載してもらい周知を図った。</p> <p>2.子育て支援事業 ・講師を招いての親子ヨガ、連続企画で行った大人が楽しむための手仕事講座、その場で撮影した写真を使ってのカレンダーづくりなど、利用者の流れも生まれてい</p>		

	<p>る。今後相互に周知を行ったり、相互効果を得られる取り組みを進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週末の利用では小学生が幼児に気を遣いながらも遊んでくれたり、いい交流が生まれているように感じる。 <p>3.地域交流イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントで保護者や地元の材木店に協力してもらい、大人もこどももワクワクするよう木工のイベントを山の上の敷地で行うことができた。出来上がった遊具はその日だけで終わることなく、山での遊びが広がるきっかけとなり、多くの子が遊ぶようになった。 <p>また卓球部の中学生に声をかけ、小学生と卓球を楽しむ企画も開催。小学生はたくさん遊んでもらい大満足の様子だった。</p> <p>【達成できなかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「冒険遊び場梶原」はどんな場所なのかを利用者及び地域の方々へもっと周知をする努力が必要と感じた。 ・未就学児の利用が横ばいであった要因として、周知への不足が考えられ、あらたな親子や幼稚園・保育園への周知が少なくなったこと、また駐車車がなく、繰り返しの利用につながりにくかったのではないかと感じる。 ・出張冒険遊び場で参加人数の予想が出来ず、密になってしまったり、待たせてしまう回があった大人数でもできる遊びや、宣伝方法、受付の仕組み等、検討すべき項目が沢山あるように感じた。
<p>事業の 成果目標 (数値目標)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数 7,000 人 ・子育てイベント・地域イベントの実施 ・出張冒険遊び場の年 4 回開催 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数 8,503 人 ・子育てイベント参加人数 284 人 ・地域イベント参加人数 191 人 ・出張冒険遊び場 1,071 人
<p>事業概要</p>	<p>平成 16 年度から市内各所で「かまくら子育て支援グループ懇談会」と協働で実施してきた「一日冒険遊び場」を、同団体を母体として設立された「NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもり」との協働事業により、「かまくら冒険遊び場・梶原」として常設化。令和元年 11 月 15 日より運営を開始した。運営日は火水金土曜日 10 時から 17 時まで（年末年始、国民の祝日は除く）</p>
<p>事業実施の 実績</p>	<p>【実績】</p> <p>○市の役割 市の役割は、事業場所の提供、負担金の支出、施設の維持管理に関する事項、施設管理者としての利用者の安全確保及び協働事業者への安全指導。</p> <p>○市民活動団体の役割</p> <p>1.冒険遊び場事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧梶原子ども会館、隣接の斜面を利用し、子どもや子育て親子の遊び場を運営。火、水、金、土曜日の 10～17 時に開所。夏休み期間中は木曜日も開所。 ・「出張型冒険遊び場」を鎌倉海浜公園、広町緑地、岩瀬下関防災公園、鎌倉中央公園において全 4 回実施。 ・安全管理等：あそび場の安全管理、リスクマネジメント講習受講、支援課と定例会議開催（あそび場の様子やヒヤリハットの共有、検討事項等）、スタッフ会議開催 <p>2.子育て支援事業</p> <p>情報提供：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアスポットを通して HP へのイベント告知、各支援センターへのチラシの配架をし、イベント等の情報提供。 ・会館にて子育てに関する情報提供

- ・月に3度イベント実施：季節を感じられる遊び、親子ヨガ、フォト入りカレンダー作成など

- ・子育てに関する研修：子育て支援員研修、あそび場にて安全講習実施

3.地域交流事業

- ・地域住民向けに事業報告会を実施。(事業推進委員会報告会資料をもとに)

- ・地域交流イベントを2回実施。

- ・地域の方々との連携：梶原山町内会、深沢支援センター、深沢地区民生委員との連携により、イベントへのご参加、イベントの広報、報告会へご参加頂く。

○具体的に行ったこと・時期

- ・冒険遊び場・梶原の運営 令和4年4月1日～令和5年3月31日

火、水、金、土曜日の10～17時開館(夏休み期間中は木曜日も開館)

- ・「出張型冒険遊び場」を鎌倉海浜公園(令和4年10月29日)、広町緑地(令和4年12月4日)、岩瀬下関防災公園(令和5年1月29日)、鎌倉中央公園(令和5年2月23日)において開催。

- ・月に一度メディアスポット担当者へメールにてイベント情報を提供し、HPへ掲載していただいた。

- ・月に概ね3度の乳幼児親子向けのイベントは支援課を通してLINE配信にて宣伝を行い、午前中の利用者増に努めた。

- ・オンライン事業報告会の開催(令和5年3月8日)

- ・子ども夏まつりの開催(令和4年7月9日)

- ・オープンデーの開催(令和4年12月10日)

- ・スタッフのスキル向上を目的とし、下記研修及び講習を受講した。

- (1) 講師に長谷川孝一氏を招き、屋外活動についての安全講習を実施(令和5年3月2日 @かまくら冒険遊び場・梶原)

- (2) 講師に高橋利通氏を招き、屋外活動についての安全講習を実施(令和4年12月8日 @かまくら冒険遊び場・梶原)

- (3) 日本冒険遊び場づくり協会 危機管理講座 理念編 受講(令和5年3月4日 @オンライン)

- (4) 防犯訓練 講師：鎌倉市地域のつながり課安心安全担当防犯アドバイザー(令和5年1月26日 @かまくら冒険遊び場・梶原)

- (5) 救命救急講座：鎌倉市消防署(令和4年12月11日)

- (6) 神奈川県子育て支援員研修(放課後児童コース)受講(令和5年1月16日,1月23日)